



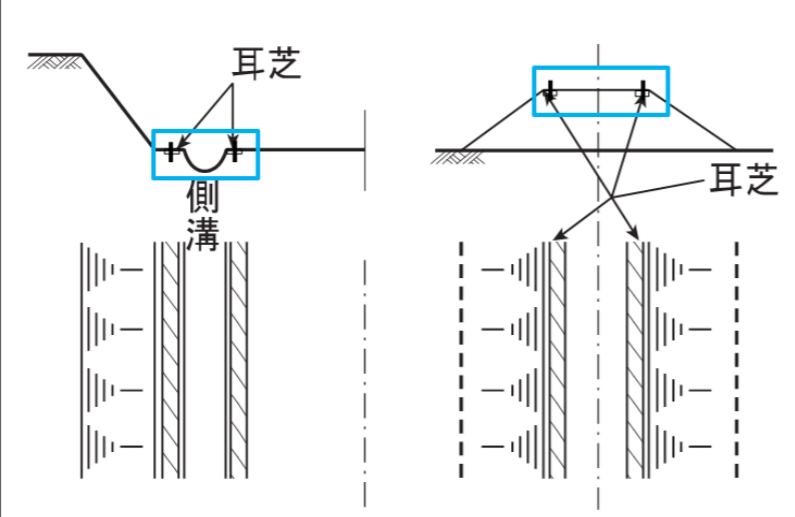
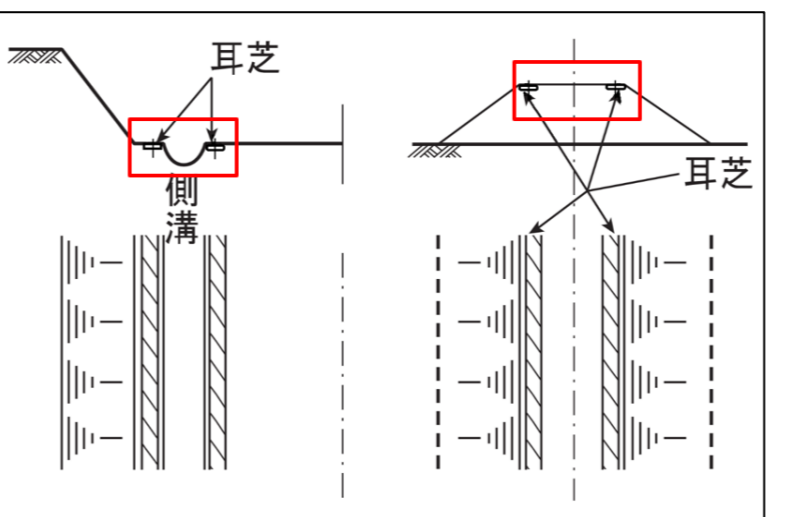






担当	現行条文(令和4年版)							新条文(令和5年版)							変更理由		
	編	章	節	条	項	下項	編章節条項以下項目 編集節条(項目見出し)	現行条文	編	章	節	条	項	下項		編章節条項以下項目 編集節条(項目見出し)	新条文
近畿	10	6	2	0	0	19		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	10	6	2	0	0	19		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	スペース
近畿	10	6	3	2	1	1	1.一般事項	受注者は、トンネル掘削により地山をゆるめないように施工するとともに、過度の爆破を避け、余振を少なくするよう施工しなければならない。	10	6	3	2	1	1	1.一般事項	受注者は、トンネル掘削により地山をゆるめないように施工するとともに、過度の爆破を避け、余振を少なくするよう施工しなければならない。	誤植
近畿									10	6	5	3	11	1	11. 横断目地	トンネル覆工コンクリートの目地の形状は「三角形形状」を標準とする。	新規追加
近畿									10	6	5	3	11	2		なお、これによりがたい場合は、監督職員と協議しなければならない。	新規追加
近畿	10	6	5	3	11	1	11. 打設時期	受注者は、覆工コンクリートの打設時期を計画(A)の結果に基づき、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。	10	6	5	3	12	1	12. 打設時期	受注者は、覆工コンクリートの打設時期を計画(A)の結果に基づき、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。	
東北	10	7	2	0	0	16		土木学会 コンクリート標準示方書(設計編)(平成30年3月)	10	7	2	0	0	16		土木学会 コンクリート標準示方書(設計編)[2017年制定](2018年3月)	誤植
東北	10	7	2	0	0	17		土木学会 コンクリート標準示方書(施工編)(平成30年3月)	10	7	2	0	0	17		土木学会 コンクリート標準示方書(施工編)[2017年制定](2018年3月)	誤植
東北	10	7	2	0	0	18		日本道路協会 落石対策便覧(平成12年6月)	10	7	2	0	0	18		日本道路協会 落石対策便覧(平成29年12月)	発行日修正
東北	10	7	2	0	0	22		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	10	7	2	0	0	22		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	スペース
北陸	10	8	2	0	0	21		日本道路協会 落石対策便覧(平成12年6月)	10	8	2	0	0	21		日本道路協会 落石対策便覧(平成29年12月)	発行日修正
北陸	10	8	2	0	0	23		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	10	8	2	0	0	23		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	スペース
中部	10	9	2	0	0	7		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	10	9	2	0	0	7		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	スペース
中部	10	10	2	0	0	7		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	10	10	2	0	0	7		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	スペース
中部	10	11	2	0	0	5		土木学会 トンネル標準示方書シールド工法編・同解説(平成28年8月)	10	11	2	0	0	5		土木学会 トンネル標準示方書シールド工法編・同解説[2016年制定](平成28年8月)	誤植
中部	10	11	2	0	0	6		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	10	11	2	0	0	6		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	スペース
中部	10	12	2	0	0	4		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	10	12	2	0	0	4		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	スペース
中部	10	13	2	0	0	4		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	10	13	2	0	0	4		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	スペース
東北	10	14	2	0	0	15		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	10	14	2	0	0	15		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	スペース
東北	10	14	14	7	5	1	5. 落下物防止対策	受注者は、河川及び供用道路上等で、旧橋撤去を行う場合は、撤去に伴い発生するアスファルト粒、コンクリート粒及び撤去に使用する資材の落下を防止する対策を講じ、河道及び交通の確保につとめなければならない。	10	14	14	7	5	1	5. 落下物防止対策	受注者は、河川及び供用道路上等で、旧橋撤去を行う場合は、撤去に伴い発生するアスファルト粒、コンクリート粒及び撤去に使用する資材の落下を防止する対策を講じ、河道及び交通の確保に努めなければならない。	誤植
東北	10	14	20	4	0	2		受注者は、路肩正整の施工については、路面排水を良好にするため路肩の堆積土砂を削り取り、または土砂を補給して整正し、締固めを行い、設計図書に示す形状に仕上げなければならない。	10	14	20	4	0	2		受注者は、路肩正整の施工については、路面排水を良好にするため路肩の堆積土砂を削り取り、または土砂を補給して整正し、締固めを行い、設計図書に示す形状に仕上げなければならない。	誤字
東北	10	15	2	0	0	4		日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック(除雪編)(平成16年12月)	10	15	2	0	0	4		日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック(除雪編)(平成16年12月)	修正
東北	10	15	2	0	0	11		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	10	15	2	0	0	11		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	スペース
東北	10	15	3	1	9	1	9. 作業上支障となる箇所	受注者は、施工区間の道路及び道路付属物等については、工事着手前に作業上支障となる箇所の把握を行い、事故の防止につとめなければならない。	10	15	3	1	9	1	9. 作業上支障となる箇所	受注者は、施工区間の道路及び道路付属物等については、工事着手前に作業上支障となる箇所の把握を行い、事故の防止に努めなければならない。	誤植
東北	10	15	3	5	4	1	4. 凍結防止剤の保管等	受注者は、凍結防止剤の保管等については、「除雪・防雪ハンドブック(除雪編)8.5.8貯蔵及び積み込み」(日本建設機械化協会、平成16年12月)の規定による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	10	15	3	5	4	1	4. 凍結防止剤の保管等	受注者は、凍結防止剤の保管等については、「除雪・防雪ハンドブック(除雪編)8.5.8貯蔵及び積み込み」(日本建設機械化協会、平成16年12月)の規定による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	修正
中国	10	16	2	0	0	13		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	10	16	2	0	0	13		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説-(平成29年11月)	スペース
中国	10	16	24	4	29	1	29. 超音波探傷試験の検査技術者	超音波探傷試験の検査技術者は、「(一社)日本非破壊検査協会「NDIS 0601非破壊検査技術者認定規定」により認定された2種以上の有資格者とする。	10	16	24	4	29	1	29. 超音波探傷試験の検査技術者	超音波探傷試験の検査技術者は、「IS Z 2305(非破壊試験技術者の資格及び認証)に基づき2種以上の有資格者とする。	修正

No.	図表番号	現行	修正後	修正内容																																																																																																						
1	図3-2-2 銘板の寸法及び記載事項 (上図のみ)	<p>※板厚8mm、字厚5mm、計13mm ※1 管理技術者氏名、※2 監理技術者氏名</p>	<p>※板厚8mm、字厚5mm、計13mm ※1 管理技術者氏名、※2 監理技術者氏名</p>	銘板内の文字修正																																																																																																						
2	表3-2-10 要求性能の確認方法	<p>表3-2-10 要求性能の確認方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">要求性能</th> <th colspan="3">確認方法</th> </tr> <tr> <th>試験方法</th> <th>試験条件</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>母材の健全性</td> <td>母材が健全であること</td> <td>JIS H 0401の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影</td> <td>メッキを剥いだ状態での母材鉄線の表面撮影</td> <td>母材に傷が付いていないこと</td> </tr> </tbody> </table>	項目	要求性能	確認方法			試験方法	試験条件	基準値	母材の健全性	母材が健全であること	JIS H 0401の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	メッキを剥いだ状態での母材鉄線の表面撮影	母材に傷が付いていないこと	<p>表3-2-10 要求性能の確認方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">要求性能</th> <th colspan="3">確認方法</th> </tr> <tr> <th>試験方法</th> <th>試験条件</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>母材の健全性</td> <td>母材が健全であること</td> <td>JIS G 3547の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影</td> <td>メッキを剥いだ状態での母材鉄線の表面撮影</td> <td>母材に傷が付いていないこと</td> </tr> </tbody> </table>	項目	要求性能	確認方法			試験方法	試験条件	基準値	母材の健全性	母材が健全であること	JIS G 3547の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	メッキを剥いだ状態での母材鉄線の表面撮影	母材に傷が付いていないこと	JISの改正																																																																												
項目	要求性能	確認方法																																																																																																								
		試験方法	試験条件	基準値																																																																																																						
母材の健全性	母材が健全であること	JIS H 0401の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	メッキを剥いだ状態での母材鉄線の表面撮影	母材に傷が付いていないこと																																																																																																						
項目	要求性能	確認方法																																																																																																								
		試験方法	試験条件	基準値																																																																																																						
母材の健全性	母材が健全であること	JIS G 3547の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	メッキを剥いだ状態での母材鉄線の表面撮影	母材に傷が付いていないこと																																																																																																						
3	表3-2-12 線材の品質管理試験の内容	<p>表3-2-12 線材の品質管理試験の内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>試験項目</th> <th>基準値</th> <th>試験方法</th> <th>試験の頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">工場</td> <td>線径</td> <td>3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線<sup>※1</sup>に1回</td> </tr> <tr> <td>引張強さ</td> <td>290N/mm以上</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>ねじり特性</td> <td>JIS G 3547の4.3</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>巻付性</td> <td>線径の1.5倍の円筒に6回以上巻き付け著しい亀裂及びはく離を生じない</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ成分</td> <td>※2</td> <td>原子吸光分析法、またはICP発光分析法</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ付着量</td> <td>※2</td> <td>JIS H 0401準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">公的試験機関</td> <td>線径</td> <td>3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>引張強さ</td> <td>290N/mm以上</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>母材の健全性</td> <td>母材に傷が付いていないこと</td> <td>JIS H 0401の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ成分</td> <td>※2</td> <td>原子吸光分析法、またはICP発光分析法</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ付着量</td> <td>※2</td> <td>JIS H 0401準拠</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	試験項目	基準値	試験方法	試験の頻度	工場	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	5巻線 <sup>※1</sup> に1回	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	ねじり特性	JIS G 3547の4.3	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	巻付性	線径の1.5倍の円筒に6回以上巻き付け著しい亀裂及びはく離を生じない	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	5巻線に1回	メッキ付着量	※2	JIS H 0401準拠	5巻線に1回	公的試験機関	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	200巻線に1回	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	200巻線に1回	母材の健全性	母材に傷が付いていないこと	JIS H 0401の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	200巻線に1回	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	200巻線に1回	メッキ付着量	※2	JIS H 0401準拠	200巻線に1回	<p>表3-2-12 線材の品質管理試験の内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>試験項目</th> <th>基準値</th> <th>試験方法</th> <th>試験の頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">工場</td> <td>線径</td> <td>3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線<sup>※1</sup>に1回</td> </tr> <tr> <td>引張強さ</td> <td>290N/mm以上</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>ねじり特性</td> <td>JIS G 3547の4.3</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>巻付性</td> <td>線径の1.5倍の円筒に6回以上巻き付け著しい亀裂及びはく離を生じない</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ成分</td> <td>※2</td> <td>原子吸光分析法、またはICP発光分析法</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ付着量</td> <td>※2</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">公的試験機関</td> <td>線径</td> <td>3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>引張強さ</td> <td>290N/mm以上</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>母材の健全性</td> <td>母材に傷が付いていないこと</td> <td>JIS G 3547の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ成分</td> <td>※2</td> <td>原子吸光分析法、またはICP発光分析法</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ付着量</td> <td>※2</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	試験項目	基準値	試験方法	試験の頻度	工場	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	5巻線 <sup>※1</sup> に1回	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	ねじり特性	JIS G 3547の4.3	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	巻付性	線径の1.5倍の円筒に6回以上巻き付け著しい亀裂及びはく離を生じない	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	5巻線に1回	メッキ付着量	※2	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	公的試験機関	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	200巻線に1回	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	200巻線に1回	母材の健全性	母材に傷が付いていないこと	JIS G 3547の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	200巻線に1回	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	200巻線に1回	メッキ付着量	※2	JIS G 3547準拠	200巻線に1回	JISの改正
項目	試験項目	基準値	試験方法	試験の頻度																																																																																																						
工場	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	5巻線 <sup>※1</sup> に1回																																																																																																						
	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
	ねじり特性	JIS G 3547の4.3	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
	巻付性	線径の1.5倍の円筒に6回以上巻き付け著しい亀裂及びはく離を生じない	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	5巻線に1回																																																																																																						
	メッキ付着量	※2	JIS H 0401準拠	5巻線に1回																																																																																																						
公的試験機関	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	200巻線に1回																																																																																																						
	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	200巻線に1回																																																																																																						
	母材の健全性	母材に傷が付いていないこと	JIS H 0401の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	200巻線に1回																																																																																																						
	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	200巻線に1回																																																																																																						
	メッキ付着量	※2	JIS H 0401準拠	200巻線に1回																																																																																																						
	項目	試験項目	基準値	試験方法	試験の頻度																																																																																																					
工場	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	5巻線 <sup>※1</sup> に1回																																																																																																						
	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
	ねじり特性	JIS G 3547の4.3	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
	巻付性	線径の1.5倍の円筒に6回以上巻き付け著しい亀裂及びはく離を生じない	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	5巻線に1回																																																																																																						
	メッキ付着量	※2	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
公的試験機関	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	200巻線に1回																																																																																																						
	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	200巻線に1回																																																																																																						
	母材の健全性	母材に傷が付いていないこと	JIS G 3547の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	200巻線に1回																																																																																																						
	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	200巻線に1回																																																																																																						
	メッキ付着量	※2	JIS G 3547準拠	200巻線に1回																																																																																																						

No.	図表番号	現行	修正後	修正内容																																																		
4	図3-2-6 耳芝	 <p>図3-2-6 耳芝</p>	 <p>図3-2-6 耳芝</p>	貼芝の表記を見やすく修正																																																		
5	表2-2-26 再生用添加剤の標準的性状	<p>表2-2-26 再生用添加剤の標準的性状</p> <p>プラント再生用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>標準的性状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動粘度 (60℃) ml/S</td> <td>80~1,000</td> </tr> <tr> <td>引火点 ℃</td> <td>250以上</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱後の粘度比 (60℃)</td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱質量変化率 %</td> <td>±3以内</td> </tr> <tr> <td>密度 (15℃) g/cm<sup>3</sup></td> <td>報告</td> </tr> <tr> <td>組成 (石油学会法 JPI-5S-70-10)</td> <td>報告</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 密度は、旧アスファルトとの分離などを防止するため0.95g/cm<sup>3</sup>以上とすることが望ましい。</p>	項目	標準的性状	動粘度 (60℃) ml/S	80~1,000	引火点 ℃	250以上	薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	2以下	薄膜加熱質量変化率 %	±3以内	密度 (15℃) g/cm <sup>3</sup>	報告	組成 (石油学会法 JPI-5S-70-10)	報告	<p>表2-2-26 再生用添加剤の標準的性状</p> <p>プラント再生用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>標準的性状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動粘度 (60℃) ml/S</td> <td>80~1,000</td> </tr> <tr> <td>引火点 ℃</td> <td>250以上</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱後の粘度比 (60℃)</td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱質量変化率 %</td> <td>±3以内</td> </tr> <tr> <td>密度 (15℃) g/cm<sup>3</sup></td> <td>報告</td> </tr> <tr> <td>組成 (石油学会規格 JPI-5S-70-10)</td> <td>報告</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 密度は、旧アスファルトとの分離などを防止するため0.95g/cm<sup>3</sup>以上とすることが望ましい。</p>	項目	標準的性状	動粘度 (60℃) ml/S	80~1,000	引火点 ℃	250以上	薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	2以下	薄膜加熱質量変化率 %	±3以内	密度 (15℃) g/cm <sup>3</sup>	報告	組成 (石油学会規格 JPI-5S-70-10)	報告	修正																						
項目	標準的性状																																																					
動粘度 (60℃) ml/S	80~1,000																																																					
引火点 ℃	250以上																																																					
薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	2以下																																																					
薄膜加熱質量変化率 %	±3以内																																																					
密度 (15℃) g/cm <sup>3</sup>	報告																																																					
組成 (石油学会法 JPI-5S-70-10)	報告																																																					
項目	標準的性状																																																					
動粘度 (60℃) ml/S	80~1,000																																																					
引火点 ℃	250以上																																																					
薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	2以下																																																					
薄膜加熱質量変化率 %	±3以内																																																					
密度 (15℃) g/cm <sup>3</sup>	報告																																																					
組成 (石油学会規格 JPI-5S-70-10)	報告																																																					
6	表3-2-31 接着剤の規格鋼床版用	<p>表3-2-31 接着剤の規格鋼床版用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>規格値</th> <th rowspan="2">試験法</th> </tr> <tr> <th>ゴムアスファルト系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不揮発分 (%)</td> <td>50以上</td> <td>JIS K 8833-1,2</td> </tr> <tr> <td>粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]</td> <td>5(0.5)以下</td> <td>JIS K 8833-1,2</td> </tr> <tr> <td>指触乾燥時間 (分)</td> <td>90以下</td> <td>JIS K 5600</td> </tr> <tr> <td>低温風曲試験 (-10℃, 3mm)</td> <td>合格</td> <td>JIS K 5600</td> </tr> <tr> <td>基盤目試験 (点)</td> <td>10</td> <td>JIS K 5600</td> </tr> <tr> <td>耐湿試験後の基盤目試験 (点)</td> <td>8以上</td> <td>JIS K 5604</td> </tr> <tr> <td>塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)</td> <td>8以上</td> <td>JIS K 5600</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 基盤目試験の判定点は(一財)日本塗料検査協会「塗膜の評価基準」の標準判定写真による。</p>	項目	規格値	試験法	ゴムアスファルト系	不揮発分 (%)	50以上	JIS K 8833-1,2	粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]	5(0.5)以下	JIS K 8833-1,2	指触乾燥時間 (分)	90以下	JIS K 5600	低温風曲試験 (-10℃, 3mm)	合格	JIS K 5600	基盤目試験 (点)	10	JIS K 5600	耐湿試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5604	塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5600	<p>表3-2-31 接着剤の規格鋼床版用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>規格値</th> <th rowspan="2">試験法</th> </tr> <tr> <th>ゴムアスファルト系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不揮発分 (%)</td> <td>50以上</td> <td>JIS K 8833-1,2</td> </tr> <tr> <td>粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]</td> <td>5(0.5)以下</td> <td>JIS K 8833-1,2</td> </tr> <tr> <td>指触乾燥時間 (分)</td> <td>90以下</td> <td>JIS K 5600</td> </tr> <tr> <td>低温風曲試験 (-10℃, 3mm)</td> <td>合格</td> <td>JIS K 5600</td> </tr> <tr> <td>基盤目試験 (点)</td> <td>10</td> <td>JIS K 5600</td> </tr> <tr> <td>耐湿試験後の基盤目試験 (点)</td> <td>8以上</td> <td>JIS K 5600</td> </tr> <tr> <td>塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)</td> <td>8以上</td> <td>JIS K 5600</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 基盤目試験の判定点は(一財)日本塗料検査協会「塗膜の評価基準」の標準判定写真による。</p>	項目	規格値	試験法	ゴムアスファルト系	不揮発分 (%)	50以上	JIS K 8833-1,2	粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]	5(0.5)以下	JIS K 8833-1,2	指触乾燥時間 (分)	90以下	JIS K 5600	低温風曲試験 (-10℃, 3mm)	合格	JIS K 5600	基盤目試験 (点)	10	JIS K 5600	耐湿試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5600	塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5600	JISの改正
項目	規格値	試験法																																																				
	ゴムアスファルト系																																																					
不揮発分 (%)	50以上	JIS K 8833-1,2																																																				
粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]	5(0.5)以下	JIS K 8833-1,2																																																				
指触乾燥時間 (分)	90以下	JIS K 5600																																																				
低温風曲試験 (-10℃, 3mm)	合格	JIS K 5600																																																				
基盤目試験 (点)	10	JIS K 5600																																																				
耐湿試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5604																																																				
塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5600																																																				
項目	規格値	試験法																																																				
	ゴムアスファルト系																																																					
不揮発分 (%)	50以上	JIS K 8833-1,2																																																				
粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]	5(0.5)以下	JIS K 8833-1,2																																																				
指触乾燥時間 (分)	90以下	JIS K 5600																																																				
低温風曲試験 (-10℃, 3mm)	合格	JIS K 5600																																																				
基盤目試験 (点)	10	JIS K 5600																																																				
耐湿試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5600																																																				
塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5600																																																				

No.	図表番号	現行	修正後	修正内容																																																																								
7	表1-2-1 土及び岩の 分類表	<p align="center"><b>表1-2-1 土及び岩の分類表</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">名 称</th> <th rowspan="2">説 明</th> <th rowspan="2">摘 要</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>礫質土</td> <td>礫まじり土</td> <td></td> <td>礫の混入があって掘削時の能率が低下するもの。</td> <td>礫(G) 礫質土(GF)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">砂質土及び砂</td> <td>砂</td> <td></td> <td>バケツ等に山盛り形状になりにくいもの。</td> <td>砂(S)</td> </tr> <tr> <td>砂質土(普通土)</td> <td></td> <td>掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空けきの少ないもの。</td> <td>砂(S) 砂質土(SF) シルト(M)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">粘性土</td> <td>粘性土</td> <td></td> <td>バケツ等に付着し易く空けきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの。</td> <td>シルト(M) 粘性土(C)</td> </tr> <tr> <td>高含水比粘性土</td> <td></td> <td>バケツなどに付着し易く特にトラフィカビリティが悪いもの</td> <td>シルト(M) 粘性土(C) 火山灰質粘性(V) 有機質土(O)</td> </tr> <tr> <td>岩塊 玉石</td> <td>岩塊 玉石</td> <td></td> <td>岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空けきのでき易いもの。岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるのを玉石とする。</td> <td>玉石まじり土 岩塊 破碎された岩 ごろごろした河床</td> </tr> </tbody> </table>	名 称			説 明	摘 要	A	B	C	礫質土	礫まじり土		礫の混入があって掘削時の能率が低下するもの。	礫(G) 礫質土(GF)	砂質土及び砂	砂		バケツ等に山盛り形状になりにくいもの。	砂(S)	砂質土(普通土)		掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空けきの少ないもの。	砂(S) 砂質土(SF) シルト(M)	粘性土	粘性土		バケツ等に付着し易く空けきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの。	シルト(M) 粘性土(C)	高含水比粘性土		バケツなどに付着し易く特にトラフィカビリティが悪いもの	シルト(M) 粘性土(C) 火山灰質粘性(V) 有機質土(O)	岩塊 玉石	岩塊 玉石		岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空けきのでき易いもの。岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるのを玉石とする。	玉石まじり土 岩塊 破碎された岩 ごろごろした河床	<p align="center"><b>表1-2-1 土及び岩の分類表</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">名 称</th> <th rowspan="2">説 明</th> <th rowspan="2">摘 要</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>礫質土</td> <td>礫まじり土</td> <td></td> <td>礫の混入があって掘削時の能率が低下するもの。</td> <td>礫(G) 礫質土(GF)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">砂質土及び砂</td> <td>砂</td> <td></td> <td>バケツ等に山盛り形状になりにくいもの。</td> <td>砂(S)</td> </tr> <tr> <td>砂質土(普通土)</td> <td></td> <td>掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空けきの少ないもの。</td> <td>砂(S) 砂質土(SF) シルト(M)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">粘性土</td> <td>粘性土</td> <td></td> <td>バケツ等に付着し易く空けきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの。</td> <td>シルト(M) 粘性土(C)</td> </tr> <tr> <td>高含水比粘性土</td> <td></td> <td>バケツなどに付着し易く特にトラフィカビリティが悪いもの</td> <td>シルト(M) 粘性土(C) 火山灰質粘性(V) 有機質土(O)</td> </tr> <tr> <td>岩塊 玉石</td> <td>岩塊 玉石</td> <td></td> <td>岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空けきのでき易いもの。岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるのを玉石とする。</td> <td>玉石まじり土 岩塊 破碎された岩 ごろごろした河床</td> </tr> </tbody> </table>	名 称			説 明	摘 要	A	B	C	礫質土	礫まじり土		礫の混入があって掘削時の能率が低下するもの。	礫(G) 礫質土(GF)	砂質土及び砂	砂		バケツ等に山盛り形状になりにくいもの。	砂(S)	砂質土(普通土)		掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空けきの少ないもの。	砂(S) 砂質土(SF) シルト(M)	粘性土	粘性土		バケツ等に付着し易く空けきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの。	シルト(M) 粘性土(C)	高含水比粘性土		バケツなどに付着し易く特にトラフィカビリティが悪いもの	シルト(M) 粘性土(C) 火山灰質粘性(V) 有機質土(O)	岩塊 玉石	岩塊 玉石		岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空けきのでき易いもの。岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるのを玉石とする。	玉石まじり土 岩塊 破碎された岩 ごろごろした河床	誤字
名 称			説 明	摘 要																																																																								
A	B	C																																																																										
礫質土	礫まじり土		礫の混入があって掘削時の能率が低下するもの。	礫(G) 礫質土(GF)																																																																								
砂質土及び砂	砂		バケツ等に山盛り形状になりにくいもの。	砂(S)																																																																								
	砂質土(普通土)		掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空けきの少ないもの。	砂(S) 砂質土(SF) シルト(M)																																																																								
粘性土	粘性土		バケツ等に付着し易く空けきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの。	シルト(M) 粘性土(C)																																																																								
	高含水比粘性土		バケツなどに付着し易く特にトラフィカビリティが悪いもの	シルト(M) 粘性土(C) 火山灰質粘性(V) 有機質土(O)																																																																								
岩塊 玉石	岩塊 玉石		岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空けきのでき易いもの。岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるのを玉石とする。	玉石まじり土 岩塊 破碎された岩 ごろごろした河床																																																																								
名 称			説 明	摘 要																																																																								
A	B	C																																																																										
礫質土	礫まじり土		礫の混入があって掘削時の能率が低下するもの。	礫(G) 礫質土(GF)																																																																								
砂質土及び砂	砂		バケツ等に山盛り形状になりにくいもの。	砂(S)																																																																								
	砂質土(普通土)		掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空けきの少ないもの。	砂(S) 砂質土(SF) シルト(M)																																																																								
粘性土	粘性土		バケツ等に付着し易く空けきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの。	シルト(M) 粘性土(C)																																																																								
	高含水比粘性土		バケツなどに付着し易く特にトラフィカビリティが悪いもの	シルト(M) 粘性土(C) 火山灰質粘性(V) 有機質土(O)																																																																								
岩塊 玉石	岩塊 玉石		岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空けきのでき易いもの。岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるのを玉石とする。	玉石まじり土 岩塊 破碎された岩 ごろごろした河床																																																																								
8	表3-2-26 マーシャル 安定度試験 基準値	<p align="center"><b>表3-2-26 マーシャル安定度試験基準値</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>基 準 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10~40</td> </tr> <tr> <td>空けき率 (%)</td> <td>3~12</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	基 準 値	安定度 kN	3.43以上	フロー値 (1/100cm)	10~40	空けき率 (%)	3~12	<p align="center"><b>表3-2-26 マーシャル安定度試験基準値</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>基 準 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10~40</td> </tr> <tr> <td>空隙率 (%)</td> <td>3~12</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	基 準 値	安定度 kN	3.43以上	フロー値 (1/100cm)	10~40	空隙率 (%)	3~12	誤字																																																								
項 目	基 準 値																																																																											
安定度 kN	3.43以上																																																																											
フロー値 (1/100cm)	10~40																																																																											
空けき率 (%)	3~12																																																																											
項 目	基 準 値																																																																											
安定度 kN	3.43以上																																																																											
フロー値 (1/100cm)	10~40																																																																											
空隙率 (%)	3~12																																																																											
9	表3-2-40 マーシャル 安定度試験 基準値	<p align="center"><b>表3-2-40 マーシャル安定度試験基準値</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>基 準 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10~40</td> </tr> <tr> <td>空けき率 (%)</td> <td>3~12</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	基 準 値	安定度 kN	3.43以上	フロー値 (1/100cm)	10~40	空けき率 (%)	3~12	<p align="center"><b>表3-2-40 マーシャル安定度試験基準値</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>基 準 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10~40</td> </tr> <tr> <td>空隙率 (%)</td> <td>3~12</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	基 準 値	安定度 kN	3.43以上	フロー値 (1/100cm)	10~40	空隙率 (%)	3~12	誤字																																																								
項 目	基 準 値																																																																											
安定度 kN	3.43以上																																																																											
フロー値 (1/100cm)	10~40																																																																											
空けき率 (%)	3~12																																																																											
項 目	基 準 値																																																																											
安定度 kN	3.43以上																																																																											
フロー値 (1/100cm)	10~40																																																																											
空隙率 (%)	3~12																																																																											